

忘れ物・落とし物管理システムの導入

西尾 泰道

香川大学医学部学務課学生係

1. はじめに

DXラボが開発し、香川大学幸町キャンパスですでに運用されていたシステムを香川大学医学部キャンパスに導入した事例について紹介する

2. これまでの忘れ物・落とし物管理の問題点

- ・ 職員の**落とし物管理・対応事務の工数が大きく**その削減が課題である
- ・ 学生は**問合せ先が分からず**、落とし物を探すのに時間がかかる
- ・ 学生は落とし物を自分のものか確認する際、**学務課窓口まで確認に行く必要がある**
- ・ 学生は**いつでもどこでも落とし物を確認したい**



図 医学部キャンパスの落とし物

3. 忘れ物・落とし物管理システム (KadaMikke)

- ① 職員が**アプリに必要事項を入力し**、落とし物を登録する
- ② 学生は**サイトを閲覧し**、自分の落とし物を探す
- ③ 見つからなかった場合、**通知を希望するカテゴリを登録する**
- ④ 落とし物の情報、希望するカテゴリは**すべてデータベースに格納される**
- ⑤ 希望するカテゴリの落とし物が届いた際に**メールで通知が届く**

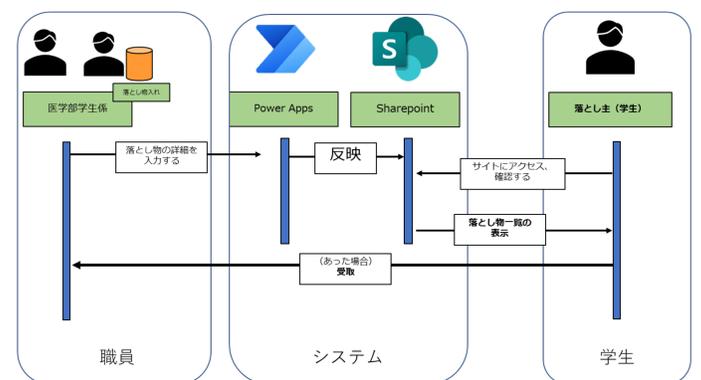


図 システムの流れ

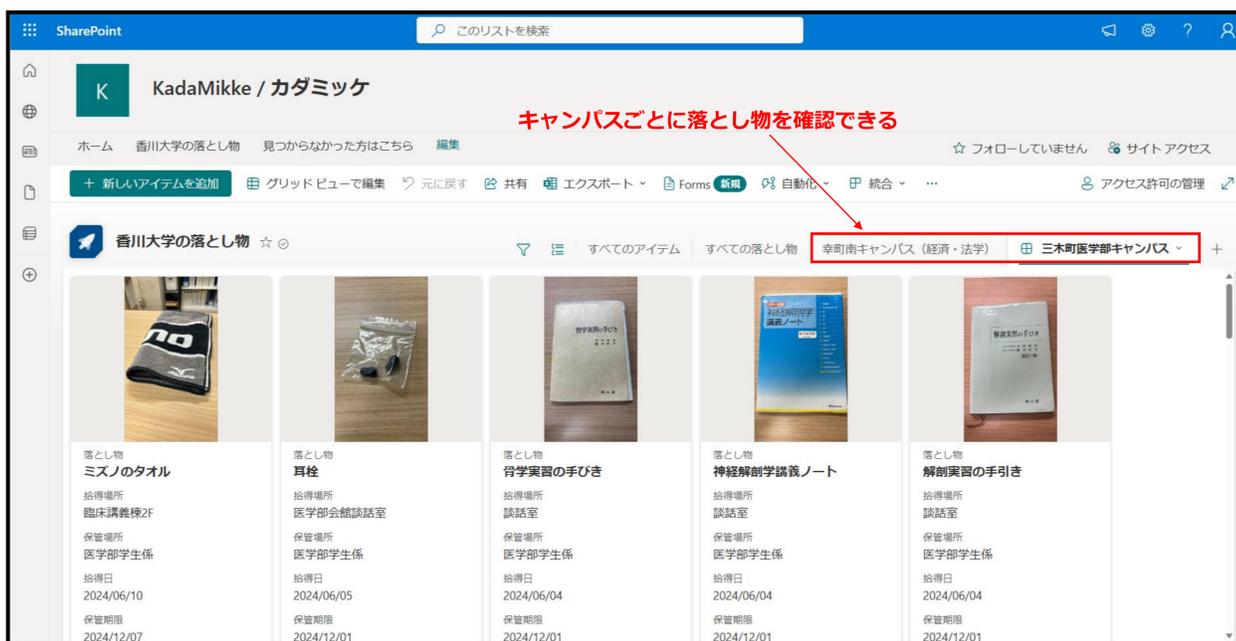


図 KadaMikkeの閲覧用画面



図 KadaMikkeの登録用画面 (職員)

4. 導入後の効果

- 学生) 落とし物を探す時間の短縮、学生係に問い合わせる時間の削減
→ 返却率の向上
- 職員) 窓口対応時間の短縮

5. まとめと今後の展望

- ・ 0からの開発は専門的知識が必要だが、保守運用は一般の事務職員でも可能
- ・ 今後は他キャンパスへの展開が期待される
- ・ 学生だけでなく、職員や病院の落とし物管理にも応用できるのではないか